

コースへの意見・要望

H25年度のアンケートで寄せられたコースへの要望や質問についてお答えします。より詳しいアンケートの結果は、結果の分析とともにコースHPに掲載しています。

Q. 授業数を増やしてほしいとの要望がありました。

A. 授業の予習・復習に有効利用をしていただくと幸いです。空き時間は自分のやりたい学問をさらに探求してください。自由度が高いメリットは大きいです。

Q. ロッカーの設置に関する要望がありました。

A. 消防法により設置は困難です。

Q. もっと飲み会を増やしてほしいとの要望がありました。

A. 新入生歓迎会、運動会、ソフトボール大会、追いコンなどイベントが盛りだくさんですので、積極的に参加してください。研究室によっては飲み会が頻繁にございますので、気になる研究室があればのぞいてみてはいかがでしょうか？

Q. アンケートが回答しにくい、Webやメールで回答してはどうかの意見が数件寄せられました。

A. これまでもこのような要望はありましたが、回答率の低下などが懸念されてきました。学部が行うWeb形式のアンケートの動向を見て今後検討していきたいと考えております。

資源循環システムコースでは下記の行事を予定しています。皆さん、積極的に先輩や後輩とコミュニケーションをとって大学生活をエンジョイしてください。

行事予定

4月 新2年生歓迎会 6月 大学祭、北工会運動会、資源杯大ソフトボール大会
8月 オープンキャンパス、大学院入試
10月 見学会(2年生)、インターンシップ報告会 11月 卒業論文中間発表会
12月 研究室仮配属(3年生)、工学部卓球大会 1月 工学部雪上綱引き大会
2月 卒論発表会、追い出しコンパ 3月 卒業式

新任の先生からの挨拶



I am Carlito Baltazar Tabelin and I am from the Philippines. My nickname is "Tolits" or "Lito" but here in Japan, people usually call me "Karito". I came to Japan ca. 8 years ago to pursue my graduate studies in the Laboratory of Groundwater and Mass Transport under the supervision of Prof. Toshifumi Igarashi. My graduate studies primarily focused on the leaching behavior, release mechanisms, migration and remediation of inorganic contaminants like arsenic, boron, selenium and heavy metals from naturally contaminated materials.

After finishing my PhD in 2011, I worked as a Postdoctoral Researcher in Hokkaido University for 1 year and 6 months and then as a specially appointed Assistant Professor for 1 year. Currently, I am the new Assistant Professor in the Laboratory of Mineral Processing and Resources Recycling, and I am engaged in studies pertaining to these topics: development of pyrite passivation techniques, gold leaching from Printed Circuit Boards (PCBs), and arsenic immobilization in tailings/waste rocks using in situ synthesized minerals like schwertmannite or ferrihydrite. In my free time, I am either working out in the gym or watching TV-series in my room. I also love to read Japanese manga and watch anime. I am particularly fond of those with adventure- or fantasy-themed storylines like One Piece, Bleach, Naruto, Fairy Tail, Meitantei Conan, Alias and Supernatural. My favorite manga character is "Roronoa Zoro" from One Piece because of his very strong will and fortitude. I also find it funny that I and Zoro both share the same weakness with directions. Luckily, google map is installed in my cellphone so getting lost doesn't happen that often to me anymore. I also enjoy playing volleyball, badminton and table tennis back in the Philippines but in Japan, I rarely have the opportunity to do them anymore. My Japanese proficiency is not so good, but I can understand a bit if you talk to me slowly. I am much more comfortable talking in English so if you want to practice your English, you are always welcome to visit me in room A6-58 and let's talk about interesting stuffs like manga, anime or, if you prefer, your research.

新委員長から一言

教育システム改善委員会の委員長を仰せつかった藤井です。これは、私が素晴らしい先生だからだったわけではなく、前委員長がやることになってるからただで、私は恥ずかしながら一度もTeacher of the Yearをもらったことがありませんが、資源の教育システム全体をよくするように一年間微力ながら努力しますので皆さんも協力よろしくお願いします。

ところで、小保方さんの問題が世間を騒がせました。これについて少し思うところを書きます。暇な人は読んでみてください。

ごく大雑把にまとめると、2014年5月現在、小保方さんは実験結果をねつ造した論文を投稿したということで、理研により処分(たぶんやめさせられる)されるといふこと。後に論文の取り下げを勧めた若山教授が、なぜこの論文の共著者になったか考えてみると、問題点を知っていて世間を欺こうとしたか、原稿を真面目に読んでいなかったかです。

こういった、若い研究者の発見に乗じて、楽して自分の業績を上げようとする賢いシニアの研究者こそ非難されるべきではないでしょうか。さらに、派手な記者会見は誰が行ったのでしょうか？本来、内容に問題のある論文を発表しても、著者が非難されることなどありません。読みたくなければ読まなければいい訳だし、よほど言いたいことがあれば誌上討論を申し込めばいいわけです。理研が派手な記者会見を行ったからこそ小保方さんは批判されているのではないのでしょうか。

つまり、理研は、派手な記者会見を謝罪し、国際特許はすぐに取り下げなければなりません。そうでなければ、STAP細胞の存在を認めていることになり、自己矛盾となるからです。小保方さんを処分するなら共著者である笹井さんも同様に処するべきでしょう。

あるいは、STAP細胞の存在を認め、誰も処分せず、謝罪も取り下げもしないか。論理が通った理研の取るべき道は2つに1つしかありません。

資源循環システムコース・教育システム改善委員会はコースのカリキュラムや講義の内容を継続的にチェックし、問題を改善することが目的で設置され、今年で十二年目を迎えます。皆さんに定期的にお願しているアンケートの分析や、改善案の提案などが主な活動内容となっています。



藤井新委員長



太田委員



児玉新委員

児玉の小言

「不携帯電話のススメ」

皆さん、携帯電話は持っていますよね？本当にこいつのおかげで便利な世の中になったと思います。あらかじめ時間や場所を決めていなくても待ち合わせできるし、ドライブの途中でも必要な情報を簡単に得ることもできます。また、一斉配信という機能を使えば多くの人に瞬時に情報を伝えることもできるし、ラインなどを使うと会話をしている気になりますね。しかし、その反面、欠点もいろいろありますね。個人情報の漏洩やIDを乗っ取られるという事件は最近よく耳にしますが、私はこの他にも、あまり良くないと感じていることがあります。これは携帯を含め、電子メール全般に言えることです。メールは「要件のみ」を伝えるには非常に強力なツールです。しかし、その反面、その人の「思い」や「気持ち」を伝えるには向かないと感じています。人と直接会って話せば、その人の表情がわかります。電話で話せばその人の声のトーンがわかります。これらのことから、その人の「思い」や「気持ち」を汲み取ったり、理解できることがあります。おそらくメールでも慎重に言葉を選べばできるのかもしれませんが、これにはそこそこ文才が必要になるかと思えます。そういう私も、実は最近メールでのやりとりでトラブルを起こしました。ある仕事のプロジェクトについて、一か月ほどメールでやりとりしていました。なぜかはわかりませんが、少しずつお互いの認識や考えが食い違っていたことに気づかず、期日に追われていたこともあり、強引に話を進められました。結果は喧嘩別れです。今から思えば、せめてたまには電話で話をしておけば良かったと猛省しています。皆さんにも、大事なことはメールのみに頼らず、直接会って話をすることを心掛けてほしいと思います。一度携帯を使うとあまりにも便利のため手放せなく気持ちほとんど良くわかります。しかし、メールや携帯電話の欠点を一度は考えてみるのもいいことではないでしょうか。たまには不携帯電話で過ごしてみませんか？

TEACHER OF THE YEAR 2013

毎年のアンケートで「すばらしかった科目」として最も評価された科目の担当教員は、Teacher of the YearとしてコースHPに掲載されています。2013年度のTeacher of the Yearは、「流体力学」原田先生

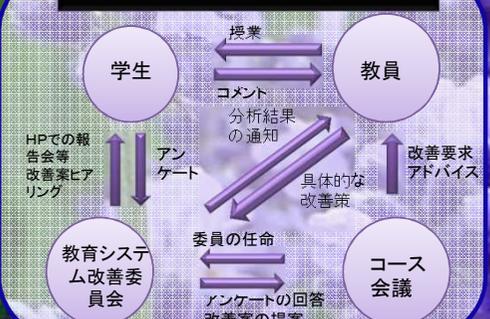
担当教員のコментар



この学年は授業中の私語がとても多く、時にはヤジが飛んできました。けど授業中に居眠りしたり携帯をいじったりする学生はほぼ1人もおらず、みんな教壇の方を向いて最後まで集中しているのがよくわかりました。教員として最高の環境で講義ができたと思います。

この科目に寄せられたコメント
・わかりやすかった。・板書が分かりやすかった。・面白かった等

本コースにおける教育改善のしくみ



資源循環システムコース
講義評価アンケート瓦版

第九号
二〇一四年七月号
発行元 教育システム改善委員会